

2019 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名 布花原 明子	職名 教授	学位 看護学 (修士)
-----------	-------	-------------

研究分野	研究内容のキーワード
公衆衛生看護学	公衆衛生看護学教育 (授業及び実習方法) 保健師のキャリア形成 地域組織活動

研究課題
公衆衛生看護学に関して、地域の健康課題の解決をめざす組織活動のあり方や、その発展要因との関連、支援課題について考察する。 保健師の専門職育成に関して、公衆衛生看護学教育およびキャリア形成の双方から考察する。

担当授業科目
<p>&lt;2年次&gt; 公衆衛生看護方法論Ⅰ、公衆衛生看護方法論Ⅱ</p> <p>&lt;3年次&gt; 地区活動論</p> <p>&lt;4年次&gt; 地区活動論演習 公衆衛生看護技術演習 看護総合演習 公衆衛生看護学実習 看護総合実習</p>

<p>授業を行う上で工夫した事項 (※ 助教については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)</p>
<p>授業科目名【公衆衛生看護方法論Ⅰ (旧カリ：公衆衛生看護技術論)】</p> <p>2年次前期保健師必修・看護師選択科目 (新設科目) である。</p> <p>履修者は前年度の約 1.5 倍に増加し教室変更を行った。授業ではメディア教材を取り入れる機会を増やし、実際の公衆衛生看護技術の場面をイメージできるよう工夫した。また、参加型授業では健康教育に関して学生が企画書を作成し発表する機会を取り入れ理解を深められるよう工夫した。</p>
<p>授業科目名【公衆衛生看護方法論Ⅱ (旧カリ：地区活動論)】</p> <p>2年生後期保健師必修・看護師選択科目 (新設科目) である。</p> <p>昨年度「現場での実際の保健師活動を知りたい」との学生の要望を取り入れ、外部講師 (北九州市役所健康推進課) による講義を 1 回取り入れた。自治体の保健福祉計画作成と保健師の機能について予め教員が基礎的知識を講義した後、外部講師が市の保健医療統計データの分析に基づく保健医療福祉計画 (データヘルス計画) について講義を行った。学生からは理解が深まったとの感想が多くみられた。改善点は、事前に学生の情報リテラシーの習得状況を把握しておらず、地域診断の単元では統計データの処理に時間を要し、学習目標である地域アセスメントの理解の到達度が低かった点である。</p>
<p>授業科目名【4年次集中講義：公衆衛生看護技術演習・地区活動論演習】</p> <p>保健師課程 4 年生前期の必修科目である。</p> <p>公衆衛生看護学実習の開始前に、実習地域の地域診を行う「地区活動論演習」と、実習地域の健康課題の解決のための健康教育技術演習及び家庭訪問技術演習「公衆衛生看護後術演習」を連動させて計画した (4 月中旬～6 月上旬集中講義)。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地区活動論演習：シラバスをベースに演習の進め方のガイドブックや統計データのアクセス方法の資料等を配布し、学生が効率的に情報を収集できる方法を提示するなどの工夫を行った。しかし、学生にとっては統計データの収集と提出課題への負担感が強いようである。実習に向けて保健師が対象とする住民の健康に関心をもち、集団データから住民の健康状態を推測しながら公衆衛生看護活動への興味関心を高められるような工夫が課題である。</li> </ul>

- ・公衆衛生看護技術演習：家庭訪問技術ではロールプレイを実施。教員が住民役となりいくつかの反応パターンを準備し、対象と状況に応じた実践的な保健指導について学生が思考できるよう心掛けた。健康教育技術では事前に実習施設に伺い、指導者との事前打ち合わせを行い、学生の習熟度に合わせたテーマ及び対象を設定していただけるよう調整に配慮した。学内演習成果について、実習施設から全グループとも準備状況に対し高評価を得ている。

授業科目名【看護総合演習・看護総合実習】

4年次前期科目である。

保健師課程学生が3か所の企業において各施設の特性に応じた看護実践を行う。学生が企業特性を生かした実習テーマを設定できるよう、事前に指導保健師から施設の情報を得るなど工夫し、演習の授業に役立てるよう工夫した。実習前に文献を収集しテーマ設定と実習計画を立案することができた。また、実習後は共通のテーマで考察を深められるよう、実習施設ごとに演習時間を確保した。最終評価となるレポートは看護総合実習で実践した内容について文献を引用して考察を行い、各自レポート作成を行うことができた。

学 会 に お け る 活 動

所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本公衆衛生学会	一般会員	1994年4月～現在に至る
日本看護科学学会	〃	2001年3月～ 〃
日本地域看護学会	〃	2001年4月～ 〃
日本看護教育学学会	〃	2003年4月～ 〃
日本公衆衛生看護学会	〃	2014年4月～ 〃

2019年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文)				
(学会)				
協同学習を導入した公衆衛生看護の倫理の授業研究	共著	2020年3月	西南女学院大学附属 研究所	

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共 同 研 究

研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(2) 個人研究

研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
協同学習を導入した公衆衛生看護の倫理の授業研究	本学附属研究所	270,000円	

社会における活動等

団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
北九州市保健所運営協議会	委員	2009年4月～現在に至る
認定看護管理者教育課程ファーストレベル	講師	2012年4月～現在に至る
北九州市介護保険認定審査会	審査委員	2017年4月～現在に至る

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

1. 学生募集委員会

1) 高校訪問を実施した（北九州市内2校、大分県内2校）。

看護学科の訪問校の選定にあたっては、5年間の入試形態別志願者・受験者・入学者数のデータを入手し、学科長、入試委員と動向を協議し高校訪問重点校15校を選定した。訪問時持参資料を学科で作成（5年間進路一覧表や就職推薦枠の実績等）し持参したが、訪問先の先生方の反応は好評であった。今後、近郊の高校を拡大し継続する方針である。

2) 高校模擬授業および進路ガイダンスを行った。

3) 看護学科オープンキャンパスの企画、担当教員との調整及び当日の運営を行った。

4) 入試説明会をはじめ、学生募集に係る本学のPR（パンフレット等）などを作成した。

5) 在校生の高校訪問の依頼学生の選出を行い、訪問前後の準備を整えた。

2. 2年生アドバイザー

責任者として年間のアドバイザー活動方針を示し、4名のアドバイザー体制のもと年間活動計画を作成、実施した。

1) 学習支援

国家試験対策の一環として業者模試の実施（9月）。その後、テーマ「看護師国家試験の動向と2年次の国家試験対策」について2年生を対象に研修を実施（1コマ）。その後、模試問題のやり直し学習とポートフォリオファイルの作成支援を行った。年度末に成果確認テストを実施した（1月）。

2) キャリア形成支援

6月、10月にキャリア形成に関する研修の実施。学生は各自が興味関心を持つ看護職や働く場について情報収集と交換会の実施等を行った。学生が自らの目標に向かって2年生次に行くことを話し合い発表した。

3) 保護者懇談会について

今年度、1年次と合同で保護者懇談会を実施。企画及び講演テーマの決定と講師との調整、当日の運用等を行った。

4) 個別支援

新年度及び後期開始時に個別面談を行い学生個々の状況を把握し、履修計画や生活指導等を行った。成績不良者や留年確定者へは学科長や実習指導者と連携し随時、面談を実施した。同時に保護者対応を実施した。

### 3. 保健師国家試験対策

保健師課程学生を対象に、8月～2月にかけて業者模試(3回)、結果分析に基づき対策を講じた。前年度は不合格者1名という結果であったため、今年度は補講の開始時期を早めて対応した。毎回の業者模擬試験の実施後、結果分析に基づき補講を実施。1月は集中強化期間として全員を対象に隔日2コマの国試対策補講を実施した(2019年度保健師国家試験合格率100%)。